

(様式例 2)

## 平成 23 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

### I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 景気悪化や震災等様々な要因により、今年度は高卒者の採用状況がますます悪化すると予想され、採用試験対策の強化が必要とされる。 ・ 進路情報の提供や進路啓発、指導の状況については、生徒・保護者から概ね評価いただいている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 学年部と連携した採用試験対策の強化とインターンシップなど全職員による進路啓発事業の効果的かつ円滑な推進		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ 主任会での意見交換、連絡調整 ・ 学年会との密な連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 基礎学力補習や面接指導の強化 (2) 地元製造業の企業との連携によるインターンシップ等進路啓発事業の開催	(1) 就職・進学希望者の内定・合格達成度 (2) 生徒のアンケートや感想文、企業の方の評価見届け職員からの報告からその効果を確認		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・ 一般常識課題考査実施に加え、朝学習の継続、就職または進学模試の全員受験 ・ 面接指導の早期実施、難関企業受験に向けての就職ガイダンス（特別面接指導）の実施 ・ 大垣地域合同企業展の年度内 2 回開催 ・ 1 年生全員対象の班別企業リサーチの実施 ・ 2 年生全員対象のインターンシップ事業実施 ・ 外部講師による講話・ガイダンスの実施	① 学力補充や面接指導等を通して、生徒の進路希望を成就させることができたか。 ② 生徒の地元企業の活動に対する理解や職業観が深まったか。 ③ 生徒の社会人として望まれるマナーやコミュニケーション能力が高まったか。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D	
11 成果・課題	○ 求人倍率は昨年より 1 割減（4 年前の半数）となったが、採用の一次試験不合格者数は昨年並みに留まり、特殊な事情を抱える生徒以外は 1 2 月までにはほぼ 就職・進学とも希望を叶えさせることができた。 ● 今年度は不合格理由の半数が学力試験の成績不良であり、やはり日頃からの学習成果が問われていることを再確認した。また、意欲、元気のなさや適正試験、実技試験の不出来を指摘されるところもあり、多面的な対策が望まれ、今後の指導体制の中で考慮が必要である。 ● 不景気によって、企業展やインターンシップ等の進路啓発事業について、少しずつ協力を得られない企業が出てきている。また、実施効果を上げるためにも、事業の実施方法の見直しをする時期にも来ている。		総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案	○ 3 年間を見通した進路計画を生徒に立てさせ、早期から実現に向けて努力させる指導体制を確立する。 ○ さらなる基礎学力、コミュニケーション能力を高めるための方策を研究模索し、難関の企業や大		

学に向けても通用する能力を育てる。  
○啓発事業については、実施方法の見直しとともに、協力依頼先を拡充し、インターシップや企業リサーチの派遣先を生徒の在住地や関心に応じて選べるようにする。

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成24年1月16日

### 【意見・要望・評価等】

- ・大工生を面接すると今一步の感がある。
- ・大工の資質が評価されにくいので残念。そのあたりを検討してほしい。
- ・これからは語学力が必要となってくる。